

懸賞SA 解答 2021年 11月号

問1 正解③ 逮捕後直ちに裁判官の審査を受けて逮捕状の発付を求めることとなる緊急逮捕は、逮捕状を提示しないで逮捕することとなるが、判例は、憲法33条の令状主義に反するものではないとしている（最大判昭30.12.14）。

問2 正解④ 相手方の承諾が得られない場合であっても、搜索に至らない行為は、強制にわたらない限り、所持品検査の必要性、緊急性、これによって害される個人の法益と保護されるべき公共の利益との権衡等を考慮し、具体的状況の下で相当と認められる限度において許容されるが、着衣ポケットの中に手を差し入れてその中身を取り出すことまでは許容されていない（最判昭53.9.7）。

問3 正解① 暴行罪における「暴行」とは、人の身体に対する有形力の行使をいい（狭義の暴行）、他人の衣服を掴んで引っ張る行為、狭い部屋で日本刀を振り回す行為、食塩を振りかける行為のほか、石を投げたが当たらなかった場合なども、ここでいう「暴行」に当たるものとされている。

問4 正解② 被疑者を取り調べるために任意出頭を求めるに当たっては、その方法として、呼出状を送付することはもちろん、電話や口頭によって行うことも許される。

問5 正解⑤ 「清廉にして、堅実な生活態度を保持すること」が正しい。これは、法の執行者として己を厳しく律し、私生活においても清廉を保ち、明るく堅実な生活を営むよう努めなければならないことを意味している。

問6 正解⑤ 「行政活動よりも捜査活動を積極的に推進する」は誤りである。市民の要望、事案の態様、法令の趣旨などに応じて、行政活動と捜査活動の両面をバランスよく、効果的に推進することが求められている。

問7 正解④ 端緒情報は、断片的で抽象的なものが多く、直接犯罪行為に結びつくものはまれである。しかし、風評程度の情報であっても、犯罪捜査の端緒となり得る場合があるので、速やかに報告すべきである。

問8 正解② 自転車利用者に対しては、保護・誘導活動を積極的に行うだけでなく、違反行為があれば指導警告を行うとともに、悪質・危険な違反行為については検挙措置を執るなど、遵法意識の向上に努める必要がある。

問9 正解① 群集行動は、最初は平穏な集団行動であっても、途中から予測もしなかった方向に暴走し、大きな騒動に発展することが多い。群集の中に生じるこのような心理状態は「群集心理」と呼ばれており、警備犯罪は、この群集心理に影響される場合が多いのが特徴である。

問10 正解③ 「明鏡止水（めいきょうしずい）」とは、邪念がなく澄み切って落ち着いた心のことである。煩悩や情欲等のために、心が混乱して落ち着かないことを意味する四字熟語は、「意馬心猿（いばしんえん）」である。